

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表 集計結果

令和5年度 アイ・カラーズ江吉良 校

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	85.80%	14.20%		○児童発達支援事業所の規定基準を参考とした一人あたり2.47㎡に対して、満たしている △静かに過ごす空間、静養空間に対して、用途に合わせた別室となるスペースはない。
	② 職員の配置数は適切であるか	100			江吉良校では、管理者、児童発達管理責任者、保育士、児童指導員、心理担当を配置している。
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		100		○段差は、部屋の間にはない。 △手すりの設置はない△トイレは開き戸になっている △洗面台は、大人腰程度の高さ△外からの鍵の開閉ができない。 身体障がい者、緊急時などへの配慮を検討していく。
業務改善	④ 業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか		85.8	14.2	△定期MTの実施をしていく必要がある。MT内容にて場当たりのになりがちなため、PDCAで回していく必要がある。 ・イベント等は、浸透してきている。
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	85.8	14.2		○日々の活動プログラムに反映していけるよう活動に対しての調査、個別支援計画に紐づける子どもの実態調査をアンケートにて行っている。子どもの実態調査は、半年に一回取っている △保護者の意向を把握しようと努める一方で、業務改善としての実施にまで繋がっていない事が多い。
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	100			○平成30年よりホームページにて公開している。
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			100	△第三者による外部評価として都道府県推進組織が認証した評価機関の情報を取得し危険の設置を検討していく。
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100			○Eラーニングを用いて定期的、計画的な研修や個々の研修につなげている。Eラーニングにおける学びを基に集合研修も行っている。
	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	100			○アセスメントは、契約時、半年に一度子どもの姿アンケートと称して計画書に結び付けて保護者が記入している。 △検査による数値化は行っていない。 △客観的な評価、分析を行うために日頃の子どもの実態の捉え方を研修等で学び実践する。
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	85.8	14.2		OSM社会生活能力検査による保護者目線による評価を行っている。 △Vinelandなどその他のツール使用も検討。
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	85.8		14.2	△MTの場を作り、チームによる活動プログラムを立案していく。
適切な 支援の 提供	⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	57.2	42.8		○新しいプログラムを提供している。 △特性を考慮して意図的にプログラムを固定化している側面がある。 ・新しい活動を導入するようにしている。
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	85.8	14.2		△休日、長期休暇による細やかな設定をMTを活用してできるようにしていく。
	⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	85.8	14.2		○集団活動は展開している。 △個別活動にて利用者個々のストレンクスをもとに展開していく。
	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	85.8	14.2		○職員間で打ち合わせをし確認することがある。 △MTを必ずできるようにするための就業項目や定時を決めていく。
	⑯ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		100		○申し送り書を設置し、各々が気づいたことを記入する機会がある。 △その日の振り返りは、個々で行うことが多い。 △打ち合わせを必ずできるように、就業内容や定時を決めに盛り込んでいく。
	⑰ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか		100		△支援記録にて、事実と感想を区別し記入できるように研修等で学ぶ。 △支援の検証・改善につなげていくため、記入内容をMTで話し合いの上、共有していく。

	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	100			・必ず半年に一度、個別支援計画書を保護者の方に渡している。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	85.8	14.2		○自立支援と日常生活の充実のための活動、創作活動、余暇活動の提供に努めている。 △地域交流の機会の提供において、公園や子ども食堂など公共の場に出向く中、他者との触れ合いはあるが、実際に「関わり」の場は薄い。例における他の福祉事業所との関りはない。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	85.8	14.2		○サービス担当者会議は、保護者、相談支援事業所職員、当事業所の自発管による取り組みはある。 △子どもの状況に精通した「最もふさわしい」かが不明なため、MTの中、検討していく。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	85.8		14.2	△送迎時において、職員に応じて情報共有に差異がある。 △学校側との情報共有方法から内容までMTで検討していく。 ・送迎時に伝えられなかった時は、電話対応をしている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか				○利用者における該当者がいない。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	85.8	14.2		○保護者を介してアセスメント時に情報共有をしている。 ・児童発達支援事業所の担当の方と、やり取りをしている。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	85.8		14.2	△移行先とのつながりが薄い。 △当該施設における事業拡大や営業等で他事業所との繋がりを広げていく事を検討していく。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	100			○自発管が電話及び対面における助言を受けている。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	100			○障がいのない、定型発達であろう子どもとの関わりは、公園、公共施設等において触れ合う機会はある。 △児童クラブや児童館との交流はない。 △交流できるイベントへの参加の機会、当事業所におけるイベントの開催に努める。 ・子ども食堂で、地域の方や他校の子どもと触れ合う機会を作っている。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか				△羽島市障がい総合支援協議会は、令和4年度5月から開催されていない。（羽島市健幸福祉部福祉課に確認）対象外
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	85.8	14.2		○送迎時、当日の様子を伝えることがある。（電話で伝えることもある。） △「日頃からすべて」の保護者と発達状況や課題という面が、共通理解できているかは、不明瞭である。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか			100	△ペアレントトレーニングへの理解自体が曖昧である。 △職員や保護者が、研修等でペアレントトレーニングについて知る必要がある。 △保護者においては、研修の案内を促していく。
保護者への説明責任等	㉚	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100			○契約時、施設長兼自発管が説明している。
	㉛	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	85.8	14.2		○保護者からの悩みについては、受け止める機会がある。 △適切な助言となる質量を提供できているかは、不明瞭である。 △職員の支援の質の向上を図る。個々の研修や実践を交え職員間でも学び共有していく。
	㉜	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	85.8	14.2		△参加者に偏りがあり、全員参加までには至らず、おおよそ全利用者の2割程度である。 △保護者へ保護者会の意義を伝えていく。 ・今年度は、保護者会を7月に開催しました。来年度も7月に開催予定。また、参加の方は、情報交換をしている。

	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	85.8	14.2		<p>○要望苦情箱の設置をしている。</p> <p>○要望苦情窓口における担当職員を設置している。</p> <p>△保護者へ口頭や配布物による説明までは、至っていない。</p> <p>・直接、保護者の方からご意見を頂いている。</p>
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100			<p>○定期的会報として、活動や行事内容を月に一度おたよりとして配布している。</p> <p>・HP→1会の更新 インスタ→江吉良校は、毎週木曜日に更新している。お便りは、月1回の配布。</p>
	③⑤	個人情報に十分注意しているか	100			<p>○保護者へ個人情報における同意書を記入や定期的個人情報の見直しを行っている。・大切に保管をしている。</p>
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	85.8	14.2		<p>○情報伝達の際に、音声だけでなく、視覚におけるプロンプト、身体プロンプトの提示を行っている。</p> <p>△利用者個々に応じて、優位性が異なるため、全体が情報の共有まで至らないときがある。例：ホワイトボードに一定の情報を記載しているが、全員が共有していないときがある。</p> <p>△情報の伝達方法を、アセスメントし利用者に合わせて検討しつつ統一した支援を展開</p>
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	100			<p>○昨年9月に地域住民に広報の上でイベントを行った。(子供会の会員や自治会長さんへ広報した)また、日々の活動に、自治会長さんや、羽島消防署さんも参加して下さいました。</p>
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	85.8	14.2		<p>○マニュアルは、保護者へ配布をしている。</p> <p>○事業所内にマニュアルを掲載している。</p> <p>△周知度合いは、不明瞭なため確認が必要である。</p>
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100			<p>○年に二回、活動プログラム“集団活動”の中で、消防署の協力のもと、避難訓練を行っている。(予定表に明記している。)</p> <p>・江吉良校は、4月と10月に実施している。</p>
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100			<p>○虐待防止委員会を筆頭に、年に二回虐待防止に関連する研修、毎月虐待防止チェックリストの記入、職員のストレスチェックリストの記入を行っている。</p>
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	100			<p>○身体拘束に対して、切迫性・非代替性・一時性の三項を記し同意書を保護者へ記入の上、個別支援計画書に記載している。</p>
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	100			<p>○アセスメントにて保護者へ食物アレルギーに関わる確認は取っている。</p>
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	85.8	14.2		<p>○ヒヤリハットがある都度、各職員報告書に記入をし、管理職員の会議にて、周知している。</p> <p>△全職員との共有が薄い。</p> <p>△定期的MTIにて周知していく。</p>